

＼やります!その①/

創業を考えている人や創業して間もない人・企業を支援!

みやざき 創業サポート事業

地域経済の活性化や中心市街地のにぎわいを創出するため、インキュベーションルームを運営。最長1年間、オフィスの無料貸し出しや専門家などによる総合的な創業支援を行い、創業の増加や雇用の拡大を図ります。



情報が少ないだけで実際はいろんな仕事があると思います。

大特集

いざ、地方創生!

このまま少子高齢化が進んだ場合、2040年には宮崎市の人口が今より約5万人減り、3人に1人が高齢者になると予測されています。宮崎市がこれからも住みよいまちであり続けるためにはどうすればよいか、一緒に考えてみませんか。

Part1

こんなジモトだったらいいな 市長×高校生 地方創生トーク

将来を担う高校生が考える、理想の地元とはどんなものなのでしょうか。平成28年度に実施予定の事業を交えながら、地方創生をテーマに、高校生と市長が意見を交わしました。

宮崎に活力を

宮崎工業高校2年 上山 幸斗さん

戸敷 正 市長



宮崎農業高校3年 徳田 楓さん

宮崎西高校3年 安藤 由夏さん

理想のジモトをてえよう

宮崎北高校2年 森光 音々さん

佐土原高校3年 長友 みなみさん

宮崎南高校3年 湯地 のどかさん

トークの内容が分かる スペシャルムービーはこちらから



※学校、学年は取材当時のもの。

[問]企画政策課 ☎21-1711 FAX 31-6557

就職情報が足りない!
市長：みんなは今、進学や就職のことを考えている時期だと思いますが、どうすれば将来も宮崎で暮らしていけると思いますか？
湯地さん以下、湯：私の周りではよく「県内には仕事がないので、都会に出るしかない」という話を聞きます。
市長：県内の企業があまり知られていないという話は、確かによく耳にしますね。
湯：そうですね。でも情報が少ないだけで、実際はいろんな企業や仕事があると思います。例えば県外の大学に進学した人が、就職前に宮崎の企業でインターンシップができれば、宮崎の企業を知ってもらう機会になるのでは、と思います。
市長：確かに。宮崎には、世界的に有名な機械メーカーの拠点などがあります。さらに市では今、中心市街地にICT企業をたくさん誘致していて、先日もゲーム制作会社がオフィスを開設してくれました。また、佐土原や田野高岡、



清武にもさまざまな製造・加工関連の会社が拠点を構えてくれています。宮崎の企業をもっと知ってもらえないといけませんね。
湯：はい。それに、新卒だけではなく中途採用の数も増やせば、ある程度経験を積んだ人が戻ってきてやすいのでは、と思います。
市長：そうですね。今年度はさらに①創業のサポートにも力を入れるので、雇用が拡大するよう取り組んでいきます。
農業にICTを
徳田さん以下、徳：私は両親が農業をしていて、私も同じ道に進もうと思っているのですが、若い人は「農業は大変」というイメージを抱きがち。機械を活用したり、ICTを使ったサポートが充実すれば、やりた人も増えると思います。
市長：私も実家が農業をしていて、大変だなと思ったことはいっぱいあります。それでも農業高校に進学しましたし、宮崎の農業は本当に素晴らしいと思っています。将来の担い手のためにも、②機械やICTも活用しながらもっとサポートしていく必要がありますね。

＼やります!その②/

ICTで農業の負担やコストを低減します!

ICT活用型農業 産地実証事業

これまで個別に制御していた農業器具を、まとめて管理できるシステムを導入。省力化によるコストの低減や、確かな生産予測、高品質で安定した出荷を実現して、後継者不足が深刻な農業の経営をしやすくしていきます。



ICTを使ったサポートで農業をする人も増えるのでは?



ワンポイント解説

「地方創生」とは?

大都市圏への人口の一極集中を是正するため、地方がそれぞれの特徴を生かし、地域経済の活性化につなげたり、地方に人を呼び込んだりすることで、人口減少に歯止めをかけ、豊かで安心して暮らし続けられるようになること。

宮崎市では、進学や就職の時期に当たる15才から24才までの若年層の転出が顕著です。若者にとって魅力のある仕事をつくらせたり、地域に求められる人材の育成を図ります。

企画政策課 主査 竹下 和摩

年齢別社会動態 (転入数-転出数) ※平成26年1月~12月

